

本学の課外活動の 状況について

理工学部 自然科学科 教授 飯島 正徳



後援会会員の皆様には、日頃より大学行事ならびに課外活動に対してご理解とご支援を賜り、心から御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症から学生たちを守るため、本学では様々な対策を講じております。課外活動については、新型コロナウイルスの感染状況に鑑みながら段階的に活動制限を行ってまいりました。ここではその過程、並びに現在の状況についてご報告いたします。

2020年2月後半より懇親会や合宿、本学学生団体が主催する大会などについて中止または延期としていましたが、3月に入って学内における通常の課外活動についても活動制限を行い、4月7日の緊急事態宣言発令で大学への入構が全面的に禁止となる以前より実質禁止としていました。緊急事態宣言解除後の第1クォーターおよび第2クォーターも本学は入構禁止(授業はオンライン実施)の状態が続きましたが、課外活動はそのまま活動禁止を継続しました。そのような措置について各団体とはオンラインを通じて適宜話し合いを行い、理解を求めてまいりました。ただ団体側の強い要望もあり、公式戦や発表会のための活動に関しては、申請により制限を一部緩和しました。また第3クォーターに入り、教室での対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッド型授業が始まってからは、通常の課外活動についても申請による制限の一部緩和を行いました。

もちろん申請すればどここの団体でも活動再開できたわけではなく、感染防止マニュアルおよびチェックリストに沿って各団体の感染防止意識が徹底しているかどうかを大学側が適正に判断しました。多数の書類も提出しなければならず、早く課外活動を再開させたい学生たちからは不満の声も聞こえましたが、厳しく対処しました。また活動再開を許可した団体においても、顧問による管理を強化し、徹底して感染リスクを減らすように努めておりました。

しかし秋に入ってから全国的に新型コロナウイルス感染者が再び増加し、大学としても課外活動に対して再度厳しい活動制限を

行わざるをえない状況になりました。現状としましては、2021年3月31日まで、合宿、懇親会、行事はもちろんのこと、学内で行う通常の活動も原則禁止としています。

大学生活を送る上で、正課同様に課外活動は非常に重要です。とくに人間形成の面において課外活動は多くの役割を担っております。2020年はコロナ禍により各団体とも思うような活動ができず、学生たちは多くのストレスを抱えていることでしょう。また新入部員の勧誘なども思い通りにいかず、存続に対する不安を抱く団体もあるかと思えます。

しかし今は世界的なパンデミックの状況です。大学としては何よりもすべての学生の安全を第一に考えなければならず、課外活動の一時停止は致し方ないことだと捉えています。今は我慢の時期です。これを乗り越えれば新しい生活様式のもと、再び課外活動に打ち込める日が必ずやってきます。それまで各団体ともオンラインなどを駆使し、団体が存続できるような努力を続けていただきたいと思います。本学としてもできる限りのバックアップをいたす所存です。

ちなみに17世紀に英国ロンドンでペストが流行した際、名門ケンブリッジ大学に通っていたアイザック・ニュートンは、やむなく故郷のウールズソープに戻ったそうです。そしてその1年半の休暇中の思索が、「万有引力の法則」「微分・積分」「光学」という三大業績を生み出しました。課外活動が中止となり戸惑う学生も多いでしょうが、もし時間的な余裕が生じたのなら、願わくは有意義な時を過ごしていただけたらと考えています。どんな状況でも、臨機応変に時間の有効活用ができれば、必ずや今後のプラスになるでしょう。

後援会会員の皆様には、コロナ禍における本学の課外活動に対する指導について何卒ご理解いただき、今後とも温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

事務局だより

コロナ感染拡大防止のため、令和2年4月頃より、前期授業は全て「同時双方向の遠隔授業」となりました。その際、大学生活の全てがパソコンのモニター越しとなり、その世界の中で学生の皆さんと顔を合わせる事になりました。こうした非常事態にあっても、一人もこぼす事なく授業を実施する事ができたのは、後援会の皆様からの様々なバックアップがあったお陰であると実感しております。この場をお借りして心から感謝申し上げます。

後期に入り、本学では「対面型」と「同時双方向の遠隔授業」を同時に行う「ハイブリット型授業」に移行しました。今年度入学した1年

生とは、ようやく顔を合わせる事ができた訳ですが、学生同士仲良く話をしている姿を見て、日常に戻ってきたようでひとまずホッといたしました。安全を第一に考え、ソーシャルディスタンスを確保しつつ、共に仲良く生活しようとする学生達の「ハイブリットなキャンパスライフ」を、これからも後援会の皆様と共に支援して参りたいと存じます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

等々力キャンパス 副学生部長
人間科学部 児童学科 教授
大塚 習平

